

和良の郷だより



スイカ号

和良おこし協議会発行



初めての鮎釣りを応援

和良鮎たくさん釣ったよー

今年も初心者向け鮎釣り教室を開催しました。ほとんど鮎釣り未経験の参加者が鮎釣り名人と一緒に鮎釣りに挑戦しました。



(晴天のなか鮎掛けを楽しむ参加者達)

い日となりましたが、和良川の水に足をつけると、とても心地よかったです。朝は7時に集合して、事務局からのお知らせ、和良川漁業協同組合大澤克幸組合長から道具の使い方や鮎の特性などのレクチャーを受け、いよいよ和良川に向かいます。

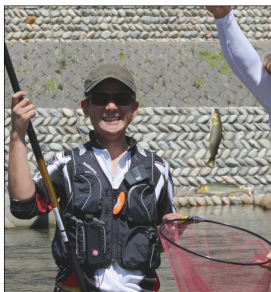
今年も5日間の開催で、前半は7月19日(月曜日)と20日(火曜日)、後半は26日(月曜日)、27日(火曜日)、28日(水曜日)でした。

前半2日間の様子ですが、どちらとも良いお天気で青空の下ちょっと暑

はじめての道具姿もあり、おとり鮎に鼻坎を通すところにはなかなか苦戦した方もあります。

準備も出来て、いよいよ鮎釣りスタートです。おとり鮎を放した瞬間にいきなり鮎が掛かり焦ってしまっ

たなんて方もありました。思うようにおとり鮎をポイントに送り出せなかったりというのがありました。慣れてくると少しずつコントロール出来るようになってきました。まん丸に肥えた鮎を苦労して取り込むと、それまでの緊張も溶けて満面の笑顔です。途中で取り込みに失敗して落ちてしまうと、実に悔しそでしたが、めげずに次に向かいます。



(鮎を釣りあげ、笑顔の参加者達)



釣りに人気の場所での開催という事もあって、いつの間にか釣り人もたくさん集まっています。土手の上からは地元の人や、和良川へ釣りに訪れた人がギャラリイとなって注目を浴びます。釣り上げると拍手が聞こ

えてきます。なかなかのプレッシャーのなかでの鮎釣り体験です。鮎釣り教室は午前中で終了となりますが、そんな中でも良い鮎を5匹釣り上げた参加者もありました。



(美味しそうに和良鮎を味わう姿)



午前中の体験が終わると、「一旦「わらおこし」に戻り、風食をとります。ここで、和良の鮎釣り教室の売りでもある「和良鮎の塩焼き」を食べてください。和良鮎が美味しいことを知っている参加者も多く、これも楽しみのひとつのようです。大澤克幸さんが和良鮎を丁寧に焼き上げますので、うまいに決まっています。一口食べて、「うまい」と言葉を発した後は無言で味わっている様子から美味しさ伝わります。午前中の勢いそのまま、午後からも思う存分鮎釣りを楽しんでおられました。

稚鮎の放流体験



(小学生が放流する様子)

6月28日(月曜日)、和良小学校3年生による鮎の放流体験を行いました。和良川漁業協同組合の大澤克幸組合長のお話のあと、子どもたちが和良川に鮎を放流しました。組合長のお話を聞いて、子どもたちは和良鮎や鮎のことに興味津々です。鮎は何を食べるの? どうやって喧嘩するの? なぜ和良鮎は美味しいの? などたくさん質問がありました。鮎の先祖は? などの答えに詰まる質問もあって、和良川には笑顔や笑い声があがります。組合長からそれぞれのバケツに鮎が配られて、さっそく和良川に放流です。なんだか名残惜しそうにしていく子もいて、「釣られずに大きくなってね。」の言葉に組合長も苦笑いです。とても暑い日でしたが、和良川の水は冷たくて気持ちよかったです。

ヒメボタル探検隊

7月16日(金曜日)、ヒメボタル探検隊を開催しました。開催日前日までは連日夕立がありましたが、この日は穏やかなお天気に恵まれました。

会場としてお借りした大月の森公園キャンプ場の研修棟でオープニング。はじめに、愛知から自然環境を求めて移住された岡田さんから、蛍との出会いや想い出のお話をいただきました。源氏蛍のともしびを求めて和良中を駆け回り、そのうちに蛍蛍との出会いもあったと話されます。残念ながら今年亡くなられた奥さんと一緒に蛍めぐりをしていた岡田さんですが、この日も奥様との思い出と一緒に蛍蛍のご案内いただきました。

蛍蛍を探って帰っていただくわけにはいかなないので、会場ではブラックライトをつかった蛍石の宝さがしをして、記念にお持ち帰りのいただきます。宝箱の中から蛍石を探し出すのになかなか苦戦する方もありましたが、全員が無事に蛍石を探し出し、小瓶に詰めてお持ち帰りました。蛍石はお隣の下呂市金山町の菅田にあるグローブライト鋳業さんのご協力を得て提供させていただきました。

さて、いよいよこの日のメインとなる蛍蛍の観察です。この場所の蛍蛍のピーク時間は10時を過ぎた頃からですが、真っ暗な中から湧き出るような光をご覧いただける時間設定になっています。現場に向かう道すがら、既にチカチカと発光が始まっています。時間が経つことにその光は増えていき、知らぬ間に斜面にまで広がっていきます。蛍蛍の体長は5mmから7mm程

度で、発光はとても弱く少しの光でもそれをかき消してしまいます。真っ暗な森の中に発光する蛍蛍の神秘的な明りがとてもはかなくありますが、そこに生きている力強さも感じます。参加者のほとんどの方が初めて蛍蛍に出会いました。源氏蛍の光とは違う事や、その場の雰囲気を感じずらあったようです。

蛍蛍の雌は飛ぶことができません。生息地の環境が悪くなるとそこで生きることができなくなってしまう。訪れる方々には、どうか細心の注意をお願いしたいと思います。



(当日の研修棟での様子)

山から川へ ムラからマチへ

7月7日(水曜日)、名古屋市中に本社があり、和良町で山林を保有し林業を営む「丸大産業株式会社」より和良川漁業協同組合への寄付金の贈呈式が行われました。新谷永社長は「これまで和良にある山林に手をかけられなかったが、そこには和良川があり和良町の暮らしがある。山を管理し保全しなければいけない。」と話されました。また、林業では大きな利益が上がりませんが、保安林として維持して

く使命があり、そこから流れる和良川にも貢献したい、さらに和良鮎は地域の人たちの宝であり、そういった想いに少しでも貢献できればと毎年和良川漁業協同組合に多額の寄付をいただいております。

和良川漁業協同組合 大澤克幸組合長からは「このところは雨の影響もあり集荷は減っているが、昨年、今年と和良鮎の出荷数は増えている。和良川は高齢者から初心者まで釣りやすい河川で、人気があり来訪者も多いと話されました。

話題は獣害被害に移り、和良町では里に出てくる獣は増えている一方で山林の害は減っているが、新谷社長によると、まだまだ植林に関しては獣害は少なくないようです。ウッドショックにより建築用木材の確保が難しくなってきたり、後継者不足、人材不足のため個人や小規模での山林の管理が出来ていないことが国産材の供給を難しくしているようです。山林王国ともいえる和良町においても、林業で自活できている者も会社もないのが現状です。

最後に新谷社長は、和良川漁業協同組合の経営と和良鮎の今後の発展に協力をさせていただきたい。自分たちが山や川に持っている想いを、地域の人にも同じように想っていただきたい、と話されました。

川の上流部にあるこの和良から自然を大切に



(寄付金贈呈の様子)

(新谷永社長)

イベント掲示板

2021.8.8(SUNDAY)
19:00 OPEN, 19:30 START
 MusicCharge 投げ銭, Drink 持ち込み可
 わらおこし: 岐阜県郡上市和良町下洞554
城領明子 x 清水明日香
 2021 夏風 弾き語りの旅
 【城領明子(じょうりょうあきこ)プロフィール】
 1997年「バンド ISLY THREES」を結成。2009年「城領明子」としてソロ活動を開始。
 2012年「Summer sonic 2012」に出場。1200組を超える中から見事選ばれる。
 その時HONDAのwebCMに「恋のマイウェイ」が起用される。
 これまでにCD、DVD、アナログ盤併せて7作品をリリース。
 【清水明日香(しみずあすか)プロフィール】

**市民協働センター
出張相談会 in 和良**

と き: 8月23日(月)
 午前10時~午後3時
 と ころ: わらおこし
 (下洞554)
 相談員: 郡上市市民協働センター
 興膳健太センター長

和良町の人口

令和3年7月1日現在

